

2020年11月12日ドイツ・ミュンヘン

2020年度 第4四半期決算

期間：2020年7月1日～9月30日

異例の情勢下、すばらしい業績

「シーメンスのチームは、異例の1年を力強く締めくくりました。新たなシーメンスの体制を整えるとともに、当社のインダストリービジネス、決算結果ともに当四半期は前年同期を上回りました。エネルギー事業を分社化し、フレンドラーを売却したシーメンスは、今後産業の変革をリードするための最適な位置についています。」シーメンスAG社長兼CEO ジョー・ケーザー

2020年度通期

- 受注は600億ユーロ、売上は571億ユーロ、出荷受注比率は1.05。
- これらの数字は、為替の影響およびポートフォリオ効果を除く名目、比較可能ベースで、前年度比で受注は7%、売上は2%減少。
- インダストリービジネスの利益(Adjusted EBITA)は、前年度から3%減の76億ユーロ。利益率14.3%は、これに1.5ポイント貢献したベントレー・システムズの株式による8億ユーロの効果を含むが、0.9ポイント押し下げた5億ユーロの退職手当費用により一部相殺される。インダストリービジネス以外では、株式投資の減損5億ユーロの影響を受けた。
- 前年度は非継続事業からの利益は5億ユーロであったが今年度は非継続事業で1億ユーロの損失があり、純利益は42億ユーロに減少し、純利益からの基本1株当たり利益(Basic EPS)は5.00ユーロとなった。
- 現金回収が厳しい状況であったにもかかわらず、フリーキャッシュフローは明確に上昇し64億ユーロとなり、過去10年で最も高い水準に到達。
- エネルギー事業の分社化に伴い、シーメンスは、シーメンスエナジーAG株の55%をシーメンス株主に分配し、さらに、9.9%をシーメンスベンシヨントラストe.V.に譲渡。残りの35.1%はシーメンスが保有しており、シーメンス エナジーへの投資として連結財務諸表への調整で報告されている。
- シーメンス エナジーの分社化が無事終了後、シーメンスは、当社の目標とする配当性向の上限3.00ユーロに0.50ユーロを上乗せし、1株当たり3.50ユーロの配当を提案。

2020年度第4四半期

- 受注は、前年同期とほぼ同水準の156億ユーロ、売上は前年同期比6%減の153億ユーロ。受注および売上は、マイナスの為替影響により大きな影響を受ける。出荷受注比率は1を上回り、1.02。
- 比較可能ベースで、受注は2%増、売上は3%減。
- インダストリービジネスの利益(Adjusted EBITA)は26億ユーロに増加。インダストリービジネスの利益率18.7%は、これに3.8ポイント貢献したベントレー・システムズの株式による5億ユーロの効果を含むが、0.8ポイント押し下げた1億ユーロの退職手当費用により一部相殺される。インダストリービジネス以外では、既述の株式投資の減損5億ユーロがある。
- 純利益は、非継続事業からの利益8億ユーロにより2019年度第4四半期から28%増の19億ユーロとなった。基本1株当たり利益(Basic EPS)は2.20ユーロ。

Siemens

(単位:100万ユーロ)	第4四半期		増減(%)	
	2020年度	2019年度	実績	比較
受注	15,559	15,659	(1)%	2%
売上	15,312	16,375	(6)%	(3)%
利益(Adjusted EBITA)				
インダストリービジネス	2,644	2,411	10%	
内:退職手当	(116)	(79)		
利益率(Adjusted EBITA margin)				
インダストリービジネス	18.7%	16.0%		
退職手当を除く	19.6%	16.5%		
継続事業からの利益	1,072	1,376	(22)%	
内:退職手当	(153)	(114)		
非継続事業からの利益(損失)、(税控除後)	807	94	>200%	
純利益	1,879	1,470	28%	
基本1株あたり利益 (単位ユーロ)	2.20	1.63	35%	
フリーキャッシュフロー(継続 事業と非継続事業)	3,762	5,262	(29)%	
ROCE (継続事業と非継続事業)	14.6%	11.1%		

- 新型コロナウイルスのパンデミックによる影響を受けた複雑なマクロ経済環境が継続し、事業や地域によるばらつきがあったが、需要が減少し、成長機会が増加した。
- 為替の影響が足かせとなり、受注はほぼ前年同期水準。大型受注による売上が大きかったモビリティでは2桁成長となり、Siemens Healthineersでは緩やかに増加したものの、他のインダストリービジネスの減少がこれらを上回った。
- 売上は、為替の逆風と新型コロナウイルス関連の影響により押し下げられた。4つのインダストリービジネスすべてで減少。
- 為替の影響により前年同期比で受注は5ポイント、売上は4ポイント減少。ポートフォリオ効果は受注を2ポイント押し上げるが、売上にはほとんど影響せず。
- インダストリービジネスの利益(Adjusted EBITA)は、ベントレー・システムズの株式関連でプラス5億ユーロ、デジタルインダストリーズのソフトウェア事業の堅調な業績、また、スマートインフラストラクチャーによる事業の売却益2億ユーロにより増加。これらの要因は、Siemens Healthineersの高比較水準からの減少を十二分に相殺。
- インダストリービジネス以外では、とりわけ、株式投資による5億ユーロの減損を含むポートフォリオカンパニー、および前年同期は引当金関連の見積もり修正の恩恵を受けた全社費用により、前年同期比で大幅減となった。シーメンスファイナンシャルサービスの利益は、信用リスクに対する引当金の増加および株式投資の損失により減少。
- 純利益は、シーメンス エナジーの分社化による税引き前利益(通期の関連費用控除後9億ユーロ)を含む、非継続事業がもたらした大きな利益により増加。
- インダストリービジネスのフリーキャッシュフローは、4つのすべてのインダストリービジネスによる堅調な貢献によって、2019年度第4四半期31億5,500万ユーロからほぼ変わらず、31億4,400万ユーロとなり、インダストリービジネスのキャッシュコンバージョンレートは1.19となった。継続事業のフリーキャッシュフローは、前年同期比で大幅に増加したが、分社化したエネルギー事業により、非継続事業のフリーキャッシュフローは2019年度第4半期の19億4,300万ユーロからマイナス9100万ユーロへと大幅に赤字転落した。
- 2020年9月30日現在の年金引当金および類似債務は64億ユーロ(2020年6月30日時点では79億ユーロ)。主にシーメンスエナジーAGの持分9.9%のシーメンスペンシオントラステ.Vへの譲渡が貢献し、大幅に減少。これにより、シーメンスの年金資産が強化され、従業員の退職後給付がさらに守られる。割引率の減少により一部相殺される。
- ROCE(使用資本利益率)は、純利益の増加と平均投下資本の減少により増加。